高校・特別支援学校

茨城県立小瀬高校　ゴルフ通じて人格形成

自然への配慮や礼儀を学ぶ

「紳士のスポーツ」とも呼ばれるゴルフを通じて、「尊敬」「責任」「礼儀」といった心や振る舞いを身に付けさせようと、茨城県立小瀬高校（常井安文校長、生徒146人）が昨年、1・3年生を対象に初めてのゴルフ授業を実施した。2日間の講座の最後には、実際にコースに出、大自然の中でのプレーを体験。生徒たちは「今回学んだことを、ぜひこれからの学校生活にも生かしていきたい」と話している。

「ナイスショット！」「ドンマイ、ドンマイ！」。紅葉の残る広大なコースに、明るい高校生の声が響き渡る―。

昨年11月27・28日と12月4・5日、県立小瀬高校の1・3年生が学校近隣の「ロックヒルゴルフクラブ」で初めてのゴルフにチャレンジした。

同校のある常陸大宮市には11のゴルフ場が点在し、首都圏から多くのゴルファーが訪れる。しかし、地元の高校生には、ゴルフは「お金がかかる」「難しい」「大人のスポーツ」といったイメージが強く、ゴルフ場そのものは、あまりなじみのある場所ではない。

「通勤途中の車内のラジオで、偶然米国のゴルフ教育のことを耳にしたのがきっかけ。ぜひいつか、教育活動の一環として取り入れてみたいと思っていた」と語るのは常井校長。本年度、同校校長に就任したのを機に、競技者育成ではなく、「紳士のスポーツ」として求める礼儀や振る舞いなどを直接体験しながら習得することを目的として、授業にゴルフを取り入れた。

実施協力したNPO法人ザ・ファースト・ティ・オブ・ジャパンによれば、審判のいないゴルフは「誠実」「尊敬」「責任」「忍耐」「礼儀」「判断」といったライフスキルを学ぶことができる教育プログラムとして、米国をはじめ世界で取り入れられているという。今回は、そのうち「尊敬」「安全」に焦点を当て、座学と実技（ラウンド）を通して、自分や他者、周り（自然環境や道具など）を尊重・配慮する心や態度を学んだ。

芝生への「尊敬」として、芝生のショット跡に丁寧に土や砂をかぶせる「目土（めつち）」をする生徒たち

「最初はなかなかうまく打てなかったが、だんだんコツが分かってきて、とても楽しかった」「特に、『場所』への尊敬というのが、今までの自分にはない考え方で新鮮だった。部活動（野球）でも、グラウンドに対して敬意をもって行動するようになった」「家でおじいちゃんに話したら、『今度一緒にやろう』と盛り上がった」など多くの感想が上がり、当初の狙いが十分生徒に伝わったことを実感することができた。

「経験者としては、つい技術をあれこれ教えたくなってしまう。しかし、講師はほとんど技術的な指導はせず、ラウンド中も生徒に一つ一つの行動の意味を丁寧に説明してくださった。自然とプレーごとに仲間から温かい声が掛かり、皆楽しそうだった」と川上卓也教諭。

好プレーを見せた生徒と、拍手や声掛け、ハイタッチで一緒に喜びを分かち合う

一方、生徒同様、今回がゴルフ初体験だった金子容子教諭は「景色が良く、とても気持ち良かった。確かに、年齢を問わないゴルフを生涯スポーツとして楽しむ人が増えれば、本校周辺地域の産業を支えることにもなる」と振り返った。

実施後、生徒からは「スキルを学ぶことができる一段階上のレベルへと高める良い機会になった」「全生徒でゴルフを経験したことは、一人一人が社会人としてのマナーや振る舞いを身に付けるにとどまらず、地域活性化、家庭や職場内でのより良い人間関係の構築など、さまざまなプラスの面がある」と受け止める。「今後も多様な教育活動を通じて、生徒一人一人が輝き、地域に貢献できる人材を育成していきたい」と学校側は話している。

常井校長、綿引英樹教頭、金澤秀美教頭も「今回の授業は、何か新しいことを学ぶというより、生徒たちが普段の生活の中で何となくやっていたことを、ゴルフを通して再認識させ、さらにも

小瀬高校＝☎0295・56・2204